

HSK NPO 法人「文福」ニュース****



「障」ちゃん



NO.306

冒頭の一言

2025 年も、残すところあと 1 か月となりました。

みなさんにとって、この一年はどんな時間だったでしょうか。振り返れば、嬉しいこと、楽しかったこと、時には大変だったこともあったかもしれません。

12 月は「終わりの月」と思われがちですが、見方を変えれば「はじまりの準備」の月でもあります。新しい年を気持ちよく迎えるために、心と暮らしを少しずつ整えていく。そんな時間が、12 月には流れているように思います。

「師走」と呼ばれるように忙しい時期ではありますが、その慌ただしさの中にも、次の年に向けて駆け抜けていく月になるかもしれません。

ゆき

—もくじ—

冒頭の一言 … 1	オカリナ演奏会のお知らせ … 2
学習会報告 … 3 – 5	リアル飲み会報告 … 6
障害者スタッフプレゼンテーション報告③ … 7 – 10	
10 月障害者部会報告 … 11	ありがとうコーナー … 12

一九九四年八月四日第三種郵便物承認
HSK 毎月一二回（一、三、五、八、一〇、一三、一五、一八、二十、二三、二五、二八日）発行

♪ オカリナ演奏を聴きに来ませんか ♪



日時 2025年12月9日(火)午後1時半～

参加費 無料

場所 富山市呉羽町 7276 番地 3 NPO 法人文福

文福事務所にて

お問合せ 電話 (076) 460-0390

お問い合わせ時間 9:00~17:00 (不在の場合あり)

♪ どなたでも気軽に聴きに来てください ♪

文福は、障害者・児及び高齢者が、地域生活で自立した生活を営み、社会参加を確保していくために必要な事業を行い、誰もが安心して暮らせる文化・福祉・人権・教育の推進を図り、社会全体の利益の推進に寄与することを目的としています。

学習会報告

河上千鶴子 (アパッチ)

10月4日(土)学習会をサンフォルテにて参加者15名で行いました。

NNNドキュメント25「だから私は生きたい、世話好き母さんの覚悟」というDVDを観て考えようという事で行う予定でした。今回のDVDは、ALSの患者さんに密着取材をしたものでした。一般的にALSの患者さんは、病気が進行して人工呼吸器を付ける段階で、延命を望まないという選択する人が約7割いると言われていています。この人もそうでした。しかし、この人の場合、息子さんの「一人にしないで」という言葉で、気管切開を行い人工呼吸器を付けて、ALSと共に生きるという覚悟をした記録でした。この人のような選択もあるのだと思い、いろいろ考えさせられました

この番組を皆さんで観て考えたら良いと思ったかという、今まで「安楽死」の問題について取り上げてきました。私たちは、どんな死に方をするかわかりませんが、もし、選択できるとしたら、どれを選びますか？

と、ところが、どういうわけか、肝心のDVDが再生出来ない事がわかりました。今までは、このような事は一度もなかったのですが、原因がわからず、焦っていました。

そこで参加していたMさんがアドバイスをしてくれて「ハンセン病回復者の半生を描いた紙芝居を見てもらえば」と、(12月に中学校で使うので、DVD化してもらうために)PCに保存しているので、それをみんなに見てもらえば、と言って助け舟を出してくれました。紙芝居を二つ見ている間に必死にYouTubeとかで見れるものがないか、介助者と探しました。いくつか出てきました。去年の秋に事務所で上映会をした時に番組の中で出て来た一人の人の事がありました。急遽、「最期を選ぶということ・安楽死のないこの国で」を見る事にしました。

スイスでは、自国だけではなく、いろんな国からの「安楽死」登録を受け入れている。全体で1500人、日本からは60人がしているとの事。スイスには、受け入れる団体が二つあるという。3万人の会員がいるが自然死が多い。

スイスでの安楽死申請のために必要な書類は、英語で書かなければならない。

- ・ 死を希望する理由書
- ・ 自身と家族との略歴書
- ・ 医師の診断書
- ・ 死を希望する理由書がある。

スイスで安楽死を遂げるためにマユミさんが、スイスに行く前からの取材がありました。マユミさんは、癌がいろんなところに転移して、痛みが激しい状態で、安楽死を認められたのは、2年前。家族4人も夫、娘二人が承諾していた。残された家族のために、いろいろなものを書き残していた。特に（娘たちが料理を作るのに困らないようにレシピ本とか誕生日カードなど）

最後は、安楽死を行う施設で、マユミさん自身の手で、薬物の入った点滴の0スイッチを入れて亡くなったのです。自殺ほう助ですね。

かいつまんで、内容を紹介しました。

- ハンセン病の紙芝居を見て、改めてこのようなひどい事を繰り返してはならないと思った。マユミさんのは、見るのが辛くて部屋から出ていた。
- 身内が、安楽死をしたいと言われたら、自分はどういう対応をするのかと考えさせられました。
- 自分たちの親の最後を見て来ているいろいろ思ったが、安楽死の事は、考えていなかった。
- PLAN75 みたいなのは、嫌だ。
- 法制化によって拡大されていく危険性がある。
- 「安楽死」を法の言葉で語ると、すべての人に適用される原則になってしまう。だから賛成・反対で対立が激しくなる。『痛みが耐えられない』状態の安楽死はやむを得ない。法のコトバでない道をさぐるべき。
- 自分の思った通りに死を迎えられる人は、殆どいない。与えられた時間を大切に生きていけばいいと思う。どうしても死を選ぶのなら、誰からの影響も受けず、自分の意思が尊重されるものであるべき。

などの意見が出されました。

この日は、とんだハプニングがあり、メモを取るのを忘れていました。

後、何人かの人の感想がありました。覚えていません。すみません。
今後は、事前に確認してから上映会を行いたいと思っています。



10, 4 学習会 感想

四十物 和雄

10, 4 学習会は予定の録画が上映されず、別のものと取り換えられる、というハップニングに見舞われました。急遽「最期を選ぶということ——安楽死のない国で」という番組の録画を見ることになりました。一度見たはずの録画でしたが、再度見ることで、この番組の制作者の意図が少し見えたような気がしました。

私は、耐えられない身体的痛み・苦しみを伴ない、もし他に対処するすべがない場合、「死にたい」「死なせてくれ」という気持ちは否定されるべきではないと思っています。だから、「安楽死」を完全に否定はできない、と考えています。しかし、今回見た録画をはじめ、この間制作されている番組（文福で学習会で使用されている録画もそう）は、明らかに「日本でも安楽死を認めることが必要だ」という方向に世論を誘導しようとしているのではないかと感じています——その観点からすれば、予定していた録画を見れなくて残念でした——。安楽死が法制化されることによって、いかなる問題が惹起されるのか？という観点がなさすぎるのです。その弊害について、児玉真美「安楽死が合法の国で起こっていること」（ちくま新書 2023）が詳しく警鐘を鳴らしていますが、それに類するような映像制作物は（「プラン 75」はフィクションでしかありません）ほとんどないように思います。あまりにも無責任すぎるのです。その実態は、「生きるに値しない命」を選別して、安楽死に導いていく、という恐るべきものです。

では、「安楽死を望む」ということにどう対処したらよいのか？本当に難しい問題ですが、一旦「法の言葉」（法制化、一律化）と離れたところで、一つ一つのケースに沿っていかなることができるのか、できないのか？を整理し直す必要がある様な気がしています。忘れてはならないのは、「苦しまなくて生きていける権利」の尊重が大切であり、それがかなわない時にのみ「安楽死」ということが出てくるのでは？ということです。

リアル飲み会報告

去る 11 月 7 日（金）夜、富山市牛島新町にある「トラットリアちいろ酒場」という所で、リアル飲み会を行い、15 名が参加しました。

お店の中は、1 段の段差がありましたが、参加者で協力して車いすユーザー数名入ることができました。

乾杯して自己紹介を行い、食事をしながら各々歓談をして、盛り上がっていました。

コース料理で、おかずは 1 人 1 皿分配られました。焼き鳥などは 1 人 1 本ずつでした。

常連さんや、初めて参加された方、今まで飲み会に参加されなかった人が来てくれてうれしく思いました。

飲み会は 19 時から始まり 21 時半ごろまで続き、そのあと数名富山駅前前で 2 次会を開き午前 0 時で散会となりました。

参加された皆様ありがとうございました。

報告者：森田



障害者スタッフプレゼンテーション報告③

村上 隆

日頃のこと

私は総合自立支援法の区分で重度訪問介護が対象外になっております。

そんな中めげずに生活しております。

生まれた時診断結果小児脳性麻痺でほとんどの脳性麻痺の方達が長くて 20 年が？

隆は脳麻痺のアトーゼ型の統合出張症 高志学園

医師 Dr：理学療法/P,T：作業療法/O.T：言語療法/ S.T：看護/Ns

隆の治療法はリハビリテーション、靴がた装具にヘルメット、歩行車、松葉杖腕固定化対策した。

高志養護学校：高志更生ホーム終えて現在 富山生きる場：家や一人暮らしをして入れ替え今もお金も足りない困っている！毎月赤字の生活五万もあります。

【感想】

- ・ 自立し、一人暮らしを希望しても、実際は費用の問題も大きくきびしいものだと思います。
- ・ 思うように法が整備されていないのは歯がゆい思いがします。
- ・ めげずに生活されているその精神力！！素晴らしいです。

八木 勝自

私は 1 歳 6 か月ではしかにかかって、脳性マヒになりました。

これまでの小さい頃は高志学園とか富山病院とか入れられていました。

高志学園は小学校から 4 年生まで 100 人中一番重度でした。

富山病院では 120 人中こんな私でも一番軽度でした。

今は生活は、福田さんや皆さんが話していたような生活をしています。

悩みもほぼ似通っています。

在宅生活は高志学園から出た時に母親と住んでいた福光で生活してい

ましたがその頃母親が芸者をしていた。外とか町とかはほぼ出してあたり
ませんでした。

出してあたったのは、夜中の 2 2 時ごろから近くの銭湯で行くくらいで
母親が一人なもので女湯に入っていました。

それで、どうして地域で暮らすようになったのかといえば、高志学園で
一緒にいた C I L の平井さんが富山病院に訪ねてきて外へ遊びに行かな
いかということで富山病院のちょっと揉めたのですが富山とかに遊びに
行くようになったのがきっかけです。

それまでは富山病院というのは、婦中町にあってそこから富山市内に遊
びに行くのは遊びに行ったのがきっかけです。

7 0 年代終わりというのは障害者運動、障害者が地域に出るとい運動
が盛んに行われた時代です。

あとは、青い芝などは全障連とかと関わって、運動をやっていました。

そういう経過があります。

【感想】

・文福も少しずつ変化してきているんだなあ〜とわかりました。

昔はボランティアも多くおられたとの事で…。

今は男女分けて支援されているので、利用者さんの気持ちも大切で
すからね。折り合いを見つけていかないといけませんね。

- ・ 70年代の終わり頃は障害者運動、地域に出ることが盛んだった時代
だそうです。たくさんの方が障害者運動をし、地域に関わってきたか
らこそ、低床バス、公共の施設のバリアフリー化など、今では当たり
前のようにになっている事から進んでいったのかと思いました。
- ・ 昔よりかは暮らしやすくなれているのか考えましたが、今は今で不便
に思う事があるのだろうなと思いました。

※ページの都合で、次回は福田さんの文章を掲載する予定です。

障害者部会 報告・10月7日

欠席者：2名

① 仲間づくりのリーフレットについて

障害者部会のメンバーを増やすためのチラシ案を、もう一度見直してから作成を進めることになった。

② 障害者部会の活動について

障害者部会だけでイベントを行うのは難しいため、派遣事業部と協力する方向だったが、まずは障害者部会から案を出すことになった。Mヘルパーが「オカリナ演奏者」を知っているとの事で、K氏がMヘルパーに連絡し、その演奏者に「12月の火曜日に文福事務所で演奏できるか」を聞いてみることになった。

③ 重度訪問介護のリーフレットについて

以前、障害者部会で作成した重度訪問介護のリーフレットの問い合わせ先は、裏面に記載されていたが表面に記載し直した。

④ 「障害」(がい)の表記について

以前、障害者部会では「障害」の「がい」を石編の「碍」にすると決めしたが、パンフレットやホームページではウ冠の「害」が使われているため、読まれている方から「表記が統一されていない」との声があり、改めて検討した結果、文福として公式にはウ冠の「障害者」と表記することに決まった。ただし、個人が書く文章では「害・碍・がい」どれを使っても構わないとした。

文責 中村

ありがとうコーナー



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後よろしくお願ひします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

もう、12月になります。今年も、もうすぐ終わりますね。今これをかいているのは、10月下旬ですが、二日前から一気に気温が下がり、慌てて我が家は、冬支度をしています。今年も、春も秋も短くて、四季がだんだん無くなっていくのではないかと思う今日この頃です。

2025年を振り返って、新たな年を迎える準備をしていくのも良いかも知れませんね。

最近、初めて日本の総理大臣が女性になりました。これで、少しは、日本の政治が変われば良いと、期待しているのですが、どうなのでしょう。

さて、今年の冬は、大雪にならないよう祈っています。
(アパッチ)より。

* 2025 年度新規会員・継続会員 *

河尻 幸男さま 松田 成美さま

* いただきもの *

波多 康世さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 3 1 2

編集人：特定非営利活動法人 ^{ぶんぶく} 文福

〒930-0138 富山市呉羽町 7276 番地 3

e-mail: bunpuku@ab.auone-net.jp

HP: <https://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 460-0390

定 価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。